

## 編集後記

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎の患者が国内でも確認されました。サーモグラフィーによる体温の監視を行っている空港の検疫を通過するなど、水際対策の難しさを示しています。今年開催される東京オリンピック2020には多くの外国人が日本にやってきます。テロ対策だけでなく、感染症対策も重要な課題のようです。

「誌上ギャラリー」には大山 勲先生より仙巖園の梅の露の写真をいただきました。雨の雫と梅の花、風情ある1シーンです。まるで命が宿っているかのようです。

「論説と話題」には新名清成先生、丸山芳一先生に「待たなしの働き方改革～勤務医の立場から～」がメインテーマの全国医師会勤務医部会連絡協議会について報告いただきました。医師の働き方改革では「医師の健康への配慮」と「地域医療の持続性」の2つを両立することが重要であり、国民の理解も不可欠です。政府の「働き方改革」には医療現場からの視点が欠けていることが問題点のようです。

鹿児島市医師会会員受賞祝賀会が開催され、様々な分野において5人の先生方が栄ある各賞をお受け取りになりました。西 宣行先生、坪内博仁先生、熊谷輝雄先生、花田修一先生、吉田浩己先生おめでとうございます。

「くすり一口メモ」にはクロストリジウム・ディフィシル感染症の治療薬について中木原由佳先生より教えていただきました。2018年に発売されたフィダキソマイシンは、消化管からほとんど吸収されず排泄されるため肝障害や腎障害を受けにくく、さまざまなメリットを持つ薬剤のようです。

「学術」には桶谷直也先生より「ペースメーカー、除細動器など植込み型心臓電気デバイスの最近の話題」をご寄稿いただきました。MRI対応や遠隔モニタリング等、目覚ましい進化のようです。岩佐元雄先生より「肝硬変のマネジメント」について教えていただきました。分岐鎖アミノ酸

(BCAA)の補完をはじめとした栄養療法が大切のようです。粟 博志先生より遺残原始三叉神経動脈の症例を通じて、ヒトの視覚維持に関する新概念：上行性下部脳幹網様体視覚賦活系をご寄稿いただきました。

「医師会病院だより」は麻酔科の蓑田祐子先生より内視鏡手術の進歩とそれに伴う麻酔法の変化について教えていただきました。手術前後の管理において、各内科の先生方との連携も重要のようです。

「切手が語る医学」には、今回も古庄弘典先生から病院・救護センター・医学講義を描く絵画の切手をご紹介いただきました。いつもありがとうございます。小田原良治先生に「医療行為と刑事責任の研究会」の報告書について解説いただきました。

「リレー随筆」は豊留孝史郎先生です。学生時代の思い出の1コマですが、思わずクスッと笑ってしまうような、あたたかく、ゆるーい感じがいい感じです。最後は思わず噴き出してしまいました。

「特集」はこの1年間の誌上ギャラリー作品集です。鹿児島ドクターズフォトクラブ会員の先生方、素敵な写真をいつもありがとうございます。

「区・支部だより」には各支部の忘年会の様子を報告いただきました。楽しそうな様子が伝わってきます。

「各種部会だより」は、刀圭会・婦人部会合同秋季例会、市民のための糖尿病講演会、内科医会11月例会、外科医会秋季例会について報告いただきました。

サッカーJ3鹿児島ユナイテッドFCの2020シーズン新体制が発表され、チームが始動しました。残留してくれた砂森選手の「鹿児島に関わるみんなとJ3で優勝！昇格して喜びたいという気持ちが全てを上回りました」、金監督の「J3で優勝することで降格したことが意味のあることだったと証明しなければならぬ」言葉が心に響きます。きっと鹿児島を熱くしてくれることでしょう！

(編集委員 今村 直人)